

「銀の道」 調査山行報告

調査日：2022年11月3日（日）

参加者

CL. 松井潤次、井口光利、井口礼子、廣井博行、小野寺昭彦、渡辺茂、後藤正弘
多田政雄、玉木大二郎、和田守、諏訪恵一 合計 11名

魚沼江戸古道「銀の道」は、三百余年前の江戸時代初め、銀運び出しの道として栄え、鉦夫や物資を運ぶ商人などが往来し、にぎわいをみせた道であったという。しかし、閉山から百三十余年、忘れ去られて荒れ放題の峠道は昭和60年湯之谷村老人クラブによって再整備され、一服場の標柱を目安に駒の湯から銀山平まで往時を偲びながら歩くことができる遊歩道として親しまれている。

山行当日、魚沼市一帯は朝もやの中にあり、予報に反して天気は快晴となった。駒の湯登山口に我々の8台を駐車し、7時に出発する。道行沢右岸を進む。駒ヶ岳小倉尾根へ取り付く吊り橋は修復中で未だ通行止めである。登山ポストも未設置だ。右岸の修復された箇所を過ぎると、登り口の一合目坂本の標柱が建っている。ここから「銀の道」に入る。取り付きは少し急であるが、直ぐに道行沢側の斜面をつづら折りで道幅も狭くなく、ゆったりと登って行くことができる。ブナ林の続く森林帯の道は落ち葉に覆われ足に優しく疲れを軽減できありがたい。



駒の湯から駒ヶ岳



一合目 坂本



落葉に覆われた道

二合目目覚まし、三合目檜の木と倒れた標柱と名称を確認しながら、進む。程なく、行く手の右にブナの大木が現れる。幹の太さは手を繋いで四人くらい必要であろうか。晩秋の色づいた広葉樹林帯の中を旬のキノコなど自然観察しながら散策気分です歩けるのは楽しく疲れを感じさせない。



ブナの大木



ナメコ発見



五合目 半腹石

四合目水函だが付近に水場はみられない。五合目半腹石、峠までの中間点を 8 時 30 分に通過。やや斜度が増し、つづら折れが細かくなって高度を稼ぐ。途中、尾根上に出ると北方に毛猛山塊や未丈ヶ岳が遠望できる。六合目中ノ水を通し、直ぐの 929m 地点の平坦な開けたところでしばし休憩とする。高度を上げたので、ブナの葉も枯れて晩秋の雰囲気を感じられる。道が灰ノ又沢側を辿るようになると細くなり木の根にも注意して通過する。七合目千体仏を過ぎると左遠方に枝折峠の駐車場が確認できる。道はふたたび、道行沢側をつづら折りとなり八合目仏道へ。カエデが赤く鮮やかだ。九合目日本坂は駒ヶ岳をはじめ展望が良い。道が左へ捲いて進むようになると枝折峠からの登山道に合流し明神峠（旧枝折峠）に着く。



赤く染まったカエデ



苔むした道しるべ



大明神 社

右に十合目大明神の社が建つ。枝折大明神は女性（木花開耶姫）で山を往き来する男性には特に情け深く、山が荒れた時、明神様に向け男性のものを差し向ければ静かになったという。駒の湯登山口から 3 間 30 分の上りであった。社から少し登った所に 1236m の峠の頂上があり三等三角点と金属製の標柱がある。眺望の効く場所に腰を下ろし昼食タイムをたっぷりとり、エネルギーを充填する。駒ヶ岳には雲がかかってしまったが、遠方の山々の山座同定を楽しむ。



峠の頂上 1236m



分岐より奥只見湖



溝状の細い道

11 時 30 分下山開始。枝折峠方面に下ると 5 分程で「銀の道」分岐があり、奥只見湖が眼下に見えてきた。分岐から下ると直ぐに九合目問屋場で藪化した平坦地がある。季節遊女までいたというのが往時に思いを馳せてみた。八合目水場は付近に湧き水など見当たらない。落葉したブナやミズナラの中を下り七合目焼山を通過する。所々、細く溝状に踏み固められた道となり勾配があって滑り易そうだが、乾いた落葉で覆われ滑らずコンディションが良かった。車のエンジン音が聞こえてくると左下に国道 352 号線が見えてきた。六合目ブナ坂から国道に最接近するがコンクリート部分を落下しないように通過する。五合目松尾根で小休憩をとり、アップダウンのあるつづら折りの道を下ると四合目十七曲が

り、小沢に出会って道行山への林道に合流すると三合目オリソで古びた案内板が置かれている。林道から北ノ又川に下り、左岸に沿って進む。途中、へつりを注意して通過すると二合目榛ノ木、道幅が広がって開高健の「河は眠らない」の石碑を見ると一合目の石抱に 13 時到着した。十合目から下り 1 時間 30 分であった。



国道の上部を通過



北ノ又川左岸のへつり



一合目 石抱

迎えのマイクロバスに乗車し、シルバーライン経由で駒の湯に戻り解散。14 時 30 分全員無事帰途についた。

記 松井潤次